

# 家庭科教員養成における家庭看護の教材開発

## —教材の特徴と学習の実際—

吉 川 はる奈	埼玉大学教育学部生活創造講座
伊 藤 葉 子	千葉大学教育学部
倉 持 清 美	東京学芸大学教育学部
叶 内 茜	東京学芸大学連合大学院
鎌 野 育 代	島根大学教育学部

キーワード：家庭看護、家庭科、学習教材、教材開発

### 1. はじめに

家庭科は小学校・中学校・高校で男女が学ぶ必修教科として様々な分野にまたがる内容をもつ。教員の専門的な知識のスキルアップのためには、多分野の学びが必要であり、充実した研修方法や研修内容についての検討が重ねられている。特に、中学、高校では保育学習が含まれ、時間は少ないものの、現代の児童・生徒の生活環境や家庭環境、きょうだい構成の影響をうけ、子どもとのふれあいを通して、子どもの発達過程を知り、子どもの生活を実践的に学ぶことがより大きな意味をもってきている。

さらに高校家庭科では、教員免許法において、平成10年に示されているものでは、表1のように、保育に関わる部分において、家庭看護が含まれている。具体的には、高等学校では第五条免許法別表第一に規定する高等学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科に関する科目の単位の修得方法として、「家庭」の免許に、保育学（実習及び家庭看護を含む。）を定めている。

表1 教員免許法（高校家庭科平成10年）で定めた家庭

家庭経営学（家族関係学及び家庭経営学を含む）
被服学（被服製作実習を含む）
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）
住居学（製図を含む）
保育学（実習および家庭看護を含む）
家庭電気・機会及び情報処理

保育学に含まれている家庭看護の内容は、高齢化社会においては、家庭内での高齢者の看護について学ぶことは急務であるとともに、現代の少子化社会においては、乳幼児と十分にふれあう機会のないままに親になることが増えており、家庭内で乳幼児に対する看護が適切に行われないう問題が生じてきている。こうした社会的現状を踏まえれば、高校において必修教科である家庭科で、「家庭看護」を学ぶ意義は非常に大きい。しかし、家庭科教員養成において、「家庭看護」の授業内容を検討し、教員になるまでにどのような力量を形成していけばよいかは、十分に研究されていない。伊藤らは（2017）、家庭看護における教育職員免許法での取り扱いの変遷と、高校家庭科教科書における「家庭看護」の記述から内容を分析した。その結果、教育職員免許法の変

遷では、1998年以降、高校のみで家庭看護が扱われていることがわかった。教科書分析では、家庭科の特徴である多岐にわたる分野の中に、見開き2ページ程度に家庭看護に関する内容が列記されるにとどまり、家庭科教員養成における「家庭看護」の授業モデルを作成することが求められていることがわかった。特に研究の成果を用いて家庭看護におけるガイドブックを作成し、家庭科教員養成課程に配布し、研究成果を授業実践に活かし、家庭科教員のスキルアップにつなげていく必要があり、共同研究者とともに学習教材作成をすすめている。

本研究は、高校家庭科教員のスキルアップに求められる「家庭看護」に関する授業内容DVDを作成し、授業の受講生を対象に、その教材使用の状況を検討し、教材の特徴と実際の授業での学生からの意見等を整理し、その効果や課題について考察することをめざしている。質問紙を作成し、教材使用による効果を検討した。なお教材については、我々が作成したデータとともに、産業技術総合研究所の事故防止と安全教育に関する映像データの協力もうけた。

現代社会において、「家庭看護」に求められる期待は増加し、また、複雑化しているが、実際には、高校家庭科の授業時間数が減っており、保育学のなかで、家庭看護をどのように位置づけ、授業実施していくのかに関してのコンセンサスを得るのが難しい現状がある。この点からも、本提案の意義が高いと考えられる。同時に、高い専門性と質の高い看護の知識をもつ高校家庭科教員を養成すること、高齢少子化社会を生き抜く高校生が身につけるべき知識やスキルを検討することは重要である。本研究では、高校家庭科教科書の調査・全国の家庭科教員養成系大学での実態を把握するための調査に基づき、カリキュラムモデルを提案するという成果を得ることを最終目標としている。これらの成果を、全国に発信することにより、家庭科教員養成の質向上と家庭科教員のスキルアップに寄与することをめざす。

## 2. 対象と方法

伊藤ら（2016）による教科書分析の結果、現行高校家庭科教科書（家庭総合、家庭基礎）で扱う家庭看護に関わる内容は健康管理、予防対策、事故防止、母子保健、に整理された。そこでこの4テーマを柱として教材開発をすすめた。テーマごとに項目を集約しなおし、授業視聴用のパワーポイントに整理していった。各テーマの項目は以下のとおりである。以下各テーマの項目を整理して、全体の特徴を示すとともに、学生の視聴後の学習効果を明らかにするために、視聴前後のアンケートおよび、視聴後の感想記述について検討した。

家庭科教員養成課程で保育学の授業を受講する学生を対象に、開発教材DVDを用い家庭看護の授業を行った。授業前と授業後に、質問紙調査を行い、視聴覚教材としての教育効果を検討した。

教員養成系国立大学3校の授業「保育学（実習および家庭看護含む）」の中で行う家庭看護の授業内容の際に、作成した家庭看護のDVD教材を用い、質問紙実施はその前後に行った。

なお本論では紙面の都合上、開発した教材の特徴の整理および、学生の視聴後の記述部分を分析し考察した。教材の開発作成は2017年4月、調査実施は2017年4月～5月であった。

## 3. 結果と考察

### 3-1 学習教材の構成

全75頁で構成。全体概要1頁、健康管理7頁、予防対策13頁、事故防止35頁、母子保健18頁

で構成した。国内の調査データを活用して、事故がどのように生じやすいのか、予防することはどうということなのか、そのために何をしたらよいか、と教育的な観点で映像や写真を用いて作成した。映像込の75頁のパワーポイントと、別途各頁の解説文をあわせて教材とした。教材内容の特徴については次項で論じていく。

## 3-2 教材内容の特徴と使用の効果

### 3-2-1 健康管理について

健康管理の内容一覧を、表2に示した。子どもの病気の種類や特徴とともに、基本的な症状とそれに対する対応の仕方を示すよう作成した。学生の記述は全体で112となったが、そのうち健康管理に関する記述は30みられ、「乳幼児、子どもは自分の体調変化に気づきにくい」、「体調不良を伝える手段が非常に限られている」、「大人が小さな変化をきづくことが大切」のほか「脱水症状になりやすいことは知っておく必要がある」、また「病気になったら、医者に行くと思っていたが、注意深く大人が観察して必要があれば、医療機関に行く」、「子どもの自然治癒力が重要」など、子どもの変化に気づくことや観察、大人のかかわり方、子どものもつ自然治癒力の3点に関する記述が占めた。

表2 健康管理の内容

健康管理(2~9頁)
健康管理の内容
子どもの病気と特徴
子どもの病気と特徴
食物アレルギー
基本的な看護(発熱)
基本的な看護(嘔吐・下痢)

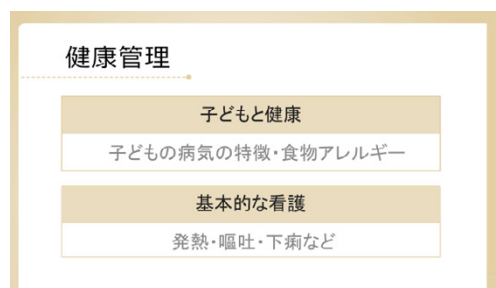


図1 <健康管理> 子どもの健康、基本的な看護について

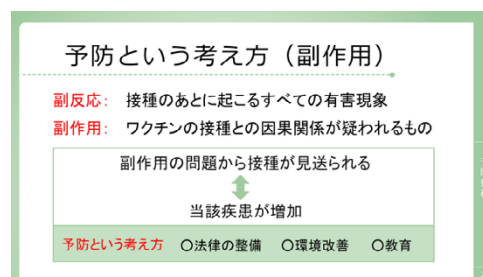
### 3-2-2 予防対策について

表3 予防対策の内容

予防対策(10~23頁)
予防対策の内容
感染症の種類
百日咳
おたふくかぜ
麻疹(はしか)
水ぼうそう
予防接種の定義
予防接種の種類(対象例)
予防接種の種類(ワクチン)
予防接種法
予防という考え方(副作用)
予防とは ビデオ

表3は予防対策の内容一覧を示したものである。

予防対策は、感染症の種類と内容や対応のポイントを作成した。また予防接種の種類や適切な接種年齢を示してある。予防対策に関する記述は27みられ、「感染症の知識を知ることだけでなく、自分が感染症になる、感染源になることを防ぐという意識も大事」「予防接種の効果も副作用も知る必要があると思った」「子ども自身が予防について学ぶのは大事と思った」「映像があれば、わかりやすいと思った」「予防のためには原因をつきとめ対応することは大事だと思った」など、感染症の知識、予防の考え方の重要性、予防接種の知識についての記述が多かった。一方、



「感染症がこんなに多くの種類があることや予防接種にたくさんの種類があることを知り驚いた。知ってよかった」など学習済みの高校家庭科の授業では理解しきれていないことも伺えた。

### 3-2-3 事故防止について

表4に示したように、事故防止では、事故の調査データを示して子どもの発達と年齢別の事故の特徴や原因、また家庭内で起こる事故の事例、事例については、映像で説明した。さらにチャイルドマウスや幼児視野体験メガネなど、大人とは異なる子どものからだの特性を実体験して理解できるように作成した。

表4 事故防止の内容

事故防止(23～57頁)	事故の予防
事故防止の内容	1～4歳児の事故
乳児死亡数・死亡率の推移	家庭内の事故(溺水)
疾病及び死亡の外因 (ICD-10)	家庭内の事故(やけど)
年齢階級別、不慮の事故の死因別、死亡数及び割合	家庭内のじこ(やけど)
子どもの事故の理解	家庭でできる応急手当ーやけどをしたら
乳児期の事故	事故の予防
子どもの発達と事故例(始まる時期)	5～9歳児の事故
家庭内の事故(誤飲1)	交通事故の発生状況
家庭内の事故(誤飲2)	年齢層別・状態別負傷者数(構成率)
家庭内の事故(誤飲3)	歩行中の交通事故死傷者数
誤飲の原因	交通事故死傷者数
誤飲の事故を防止しようチャイルドマウス	年齢階級別歩行者の違反交通事件数
誤飲の応急処置	7歳児の歩行中の交通事故死傷者数
誤飲の応急手当	幼児視野体験眼鏡
	事故予防
	安全知識共有ネットワーク
	キッズデザインアワード
	キッズデザインの輪

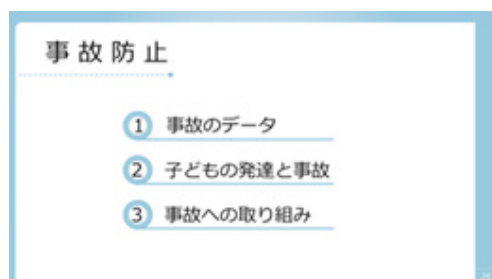


図3 〈事故防止〉 事故防止の内容

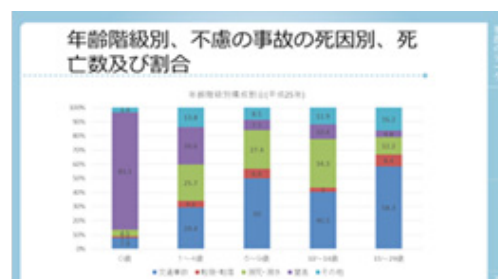


図4 〈事故防止〉 年齢別事故

事故防止に関する学生の記述は、計35認められ、「大人の立場から子どもをよくみて危険を守ることは大切だが、事故を最小限におさえるように知識も必要だ」、「チャイルドマウスというものを初めて知ったが、思ったよりもいろいろなものが口に入ってしまうのだとびっくりした」など、実



際をイメージしやすい映像を用いた教材ならではの感想であったようだ。

子どもの事故データを明示し、年齢変化で事故の実態が異なること、そこには子どもの発達とそれともなう行動特徴があることは他の授業で触れたことがあるはずだが、大人に事故の先をイメージできる力が必要であること、子どもの見え方や口の大きさは印象に残ったようだ。

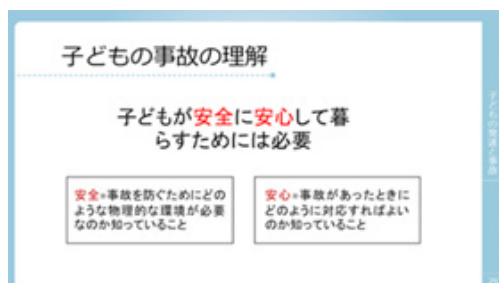


図5 〈事故防止〉子どもの事故の理解



図6 〈事故防止〉誤飲事例映像場面（産総研）



図7 〈事故防止〉誤飲の原因

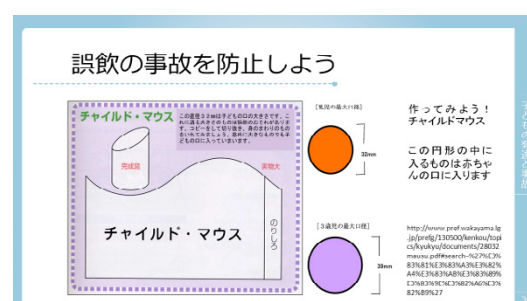


図8 〈事故防止〉誤飲の事故を防ぐ

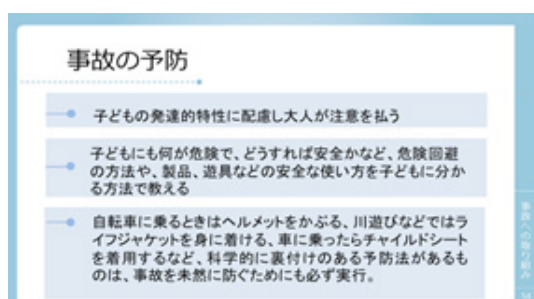


図9 〈事故防止〉事故の予防

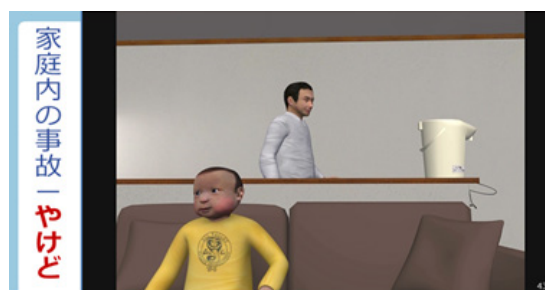


図10 〈事故防止〉家庭内の事故 やけど（産総研）

「映像や写真はやはりリアリティーがあり、事故を予想でき怖かった。大人が想像できないと、防げないと思った」「大人は危ないと分かっても子どもはやってしまうので、事故を防ぐには子どもの目線に大人がたつことが重要なのだとあらためてわかった」などの学生の記述からは、学ぶ際に、学生も想像することを丁寧に体験しないと、児童・生徒に伝えることが難しいことが示唆された。また、保育学の中で家庭看護を学ぶことで、子どもの目線に大人がたつことの重要性を意識することをより深めていくことを期待したいと考えた。

一方で「あらため学ぶ量が多いのだと思った。勉強の仕方に工夫が必要だと思った。私たちは学ぶことができたけれど、知らないと怖いと思った」などの記述からは、学習教材の活用のしかたについて工夫が必要であることもうかがえた。

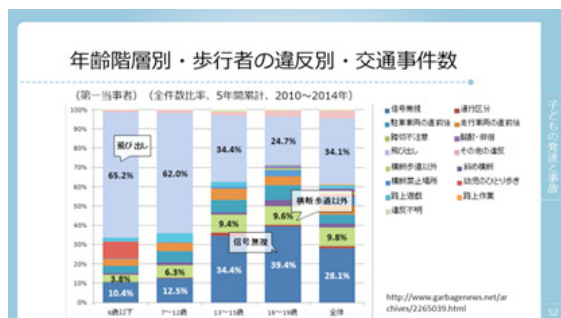


図11 〈事故予防〉 年齢別交通事故

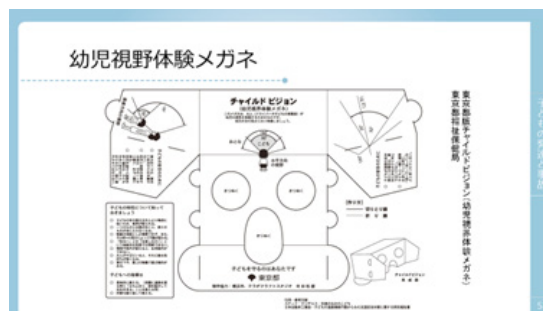


図12 〈事故予防〉 幼児視野体験

### 3-2-4 母子保健について

母子保健では、表5のように、国内外の調査データを用いて新生児死亡率の低さ、親子の健康記録データとしての母子健康手帳の役割、子育て支援のしくみや工夫を示した。そして最後にICT化によって扱う道具も便利に活用できるが、基本的な大人が健康変化をみとめる目が重要であることを解説した。

表5 母子保健の内容

母子保健(58～75頁)
母子保健の内容構成
母子保健法とは
世界に誇る日本の新生児死亡率の低さ
親子の健康記録：母子健康手帳
母子健康手帳導入国
母子健康手帳の内容
予防接種の記録
子育てに便利な記録や情報
母子健康手帳のいろいろ
乳幼児健康診査(子育てを切れ目なく支援)
自治体発行の子育てガイドブック
みんなで子育て：父親ハンドブック・東京都
みんなで子育て：父子手帳・栃木県
みんなで子育て：祖父母手帳・さいたま市
母子手帳アプリ・神奈川県
社会全体で子育てに理解を：マタニティマーク
子どもの健康を支えるしくみ

母子保健に関する学生の記述は計20認められ、「母子健康手帳のほかに、父子手帳やアプリがあることを知った。使いやすいだろうと思った」「母子手帳は子どもの発達だけの内容ではない」「母子健康手帳の広がりによって日本が役割を果たしていると知って驚いた」「知っているからこそ、これが危ないなと、想像できると思ったし、知らないことはこわいなと思った」「アプリは友達と共有してみたいと思った」があった。母子健康手帳への記述が多かったが、知らないと想像できないという指摘や、アプリを共有したいと関心を示すなど、将来世代の関心や意識を踏まえながら、授業内容を工夫していくことの必要性も伺えた。



図13 〈母子保健〉 子育てに便利な記録情報

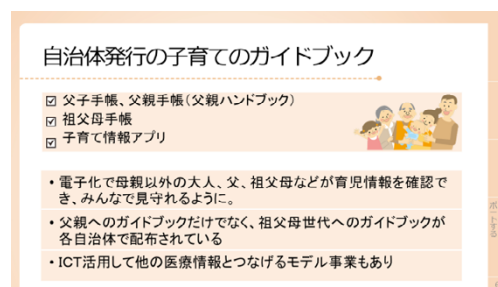


図14 〈母子保健〉 自治体発行の子育てガイドブック

## 4. まとめと今後の課題

以上、高校家庭科教員免許法に定めた内容のうち、保育学で扱う家庭看護の部分について、授業者の授業改善、質の向上に寄与することを目的にした学習教材を作成し、その特徴と視聴学生の記述を中心に論じた。その結果、教科書の記載だけではイメージしにくい、活用できる専門的な保育上のみとりの力を学習教材によって効果的に学ぶことが期待できる結果となった。また一方で、内容が多岐にわたることにより、必然的に内容量が多くなっており、限られた授業時間内で視聴するためには、よりスライド表示の仕方や説明の工夫が必要であることもうかがわれた。なお視聴前と視聴後に行った学習効果アンケートの分析結果については、別の機会に示していきたい。

### 謝辞

本研究は広域科学教科教育学研究経費の助成を得ており（代表者倉持清美）、本論文の一部は2017年度日本家庭科教育学会にて発表した。なお産業技術総合研究所の映像協力をいただいた。記して感謝いたします。

### 引用文献

Kiyomi Kuramochi, Yoko Ito, Haruna Yoshikawa, Ikuyo Kamano (2017)、Material development of 'Home Nursing' in 'Kateika' for pre-service teachers, ARAHE

伊藤葉子、倉持清美、吉川はる奈、鎌野育代（2016）高校家庭科における家庭看護の指導に関する研究、千葉大学教育学部研究紀要、65(1)、79-87

倉持清美、伊藤葉子、吉川はる奈、鎌野育代（2017）家庭科教員養成における「家庭看護」授業の開発 日本家庭科教育学会第60回研究発表抄録集

文部科学省（2010）高等学校家庭学習指導要領解説家庭編

(2017年10月30日提出)

(2017年11月18日受理)

# **Material development of ‘Home Nursing’ in ‘Kateika’ for pre-service teachers**

Educational effectiveness of developed material:

**YOSHIKAWA, Haruna**

Faculty of Education, Saitama University

**ITO, Yoko**

Faculty of Education, Chiba University

**KURAMOCHI, Kiyomi, KANOUCHI, Akane**

Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

**KAMANO, Ikuyo**

Faculty of Education, Shimane University

## **Abstract**

To train high-quality home economics teachers, a DVD on Home Nursing, a compulsory subject for teaching certificate, was produced. In addition, the DVD was used in a Home Nursing class, and student opinions were collected. The students’ opinions were analyzed from the viewpoint of the effect of the DVD. The students learned more about home nursing from watching the DVD than from reading a textbook. It is difficult for students to imagine the professional childcare of “home nursing” only by reading a textbook. Watching the DVD is useful to encourage students to gain knowledge on home nursing. On the other hand, as home nursing has a very wide-ranging and abundant content, a large amount of subject matter needs to be covered during classes. In order to give lectures within the limited class time, it is necessary to adjust the amount of content covered and devise ways to display and explain the DVD.

**Keywords:** home nursing, home economics, developed material, pre-service teachers